ID：0940

2009年度開講科目　**調査実習概要報告書**　2/2　2010年4月27日

科目担当者氏名	科目担当者連絡先（メールアドレス）
(ふりがな) おおうらひろくに 大浦宏邦	
連絡責任者氏名	**科目設置機関名**
(ふりがな) いけしゅういちろう 池周一郎	帝京大学

授業科目名	科目認定番号	受講者数
社会調査実習Ⅰ、Ⅱ	TIKa-090802-2	37名

Ⅰ．調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：授業の最初にその日に行う作業を教員が指示し、それに従って学生が調査テーマ設定、先行調査リサーチ、仮説の設定、質問文・選択肢作成、調査票の作成、調査実施、データコーディング、データ入力、単純集計、仮説の検証、報告書の作成の各作業を行った。おおむね順調に作業ができたと思われる。

Ⅱ．調査の企画・設計（デザイン）

1．調査のテーマ／領域：インターネット利用について

2．調査の内容／概要：インターネットの利用がますます盛んになっている現在において、ネットや他のメディアの利用実態やネット利用の規定因を調べることを試みた。

3．調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：帝京大学文学部2年生、3年生のうち「社会調査論」「社会環境論」の受講者について集合調査を行った。

4．主な調査項目：ネット、テレビ、新聞の利用時間・利用頻度、利用内容、興味関心のある事柄、高校時代の学生生活など

Ⅲ．データ収集の方法と結果

5．データ収集（現地調査）の方法：「社会調査論」「社会環境論」の授業の最後の15分間に集合調査の形で行った。

6．調査の実施時期・調査地・調査員の数：2009年9月下旬、帝京大学構内で実施。それぞれの授業で5名ずつの学生が調査票の配布と回収を行った。

7．収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：有効回収数252票。各授業の出席者の90%以上から回収できたと考えられる。男性が67%、女性が33%で男性に偏ったサンプルとなった。

Ⅳ．データ分析の方法と結果

8．データ分析／解釈の方法：Excelを用いて、単純集計、クロス集計とカイ２乗検定、相関係数算出を行った。

9．調査の成果（調査から得られた主な知見など）：1日のネット利用時間は平均103分、テレビの利用時間は平均121分でテレビに匹敵する利用時間であることが分かった。特に動画利用者のネット利用時間が長い傾向がある。興味関心事項との相関では、「ゲーム」に有意な正の相関、「恋愛」「サッカー」に有意な負の相関が見られた。高校時代クラブ活動に打ち込んだ人は恋愛やサッカーに関心を持ち、ゲームに関心が薄いため、高校生活の送り方がネッ

10．報告書刊行の予定と概要：刊行の予定はない

＜記入上の注意点＞ 1．調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2．最上部の*印の箇所には数字を(「*/*」には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。

3．全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけたら幸いです。

4．報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。